

特 活

第162号

横浜市立小学校特別活動研究会

発行 会長 北村 利郎
編集 広報委員会

心のコミュニケーション

横浜市立小学校特別活動研究会 会長

横浜市立山田小学校 校長 北村 利郎



携帯機器を片手で操作しながら、駅構内を我が道であるかのようにこちらへ向かってくる。私は疑問に思った。「この人は、小学生時代に特別活動を通して確かな学びをしてきたのだろうか？」と・・・。

人は人とかかわり合わずに生きていくことはできない。生き方のハンドルを操作するのは、その人の思考・判断力であり「人間力」。その力をはぐくむ一つの大切な営みが特別活動。子どもが将来、大人として立派な姿になるために、望ましい集団活動を通して多種多様な実践を積み重ねている。

そのベースとなっている一つに「話し合い活動」がある。授業を拝見すると、めあてに沿ったスムーズな話し合いのケースや話し合う視点が混在しているケースなどさまざまである。ただし、どの学年の話し合い活動の中にも、めあてとして必ず“友だちの考えをしっかりと聞く”に類する表記がある。他の人の考えを聞くことを通して、相手の人の気持ちを受け入れ、日常生活においても良好な関係を築いていきたいと考えたとき、ふと昔の遊具「シーソー」を思い起こした。

・・・自分が前に出ると 相手は下がる・・・

・・・自分が下がると 相手は上がる・・・

自分の意見が強いと 相手は遠慮するかもしれない

自分の意見が強すぎると 相手も強くなるか 自分を認めなくなるかもしれない

自分の意見を遠慮すると 自分自身が相手を認めることにもなる

確かに話し合いでは、ねらいに沿って自己の考えをもち、明確に主張することは大切なことである。しかし、単に主張するだけでなく、他の考えも受け入れることによって謙虚な姿勢や自己を抑制する感性がはぐくまれる。内容によっては、相互に譲り合う場面があってもよいと思う。相手を認め合う話し合いの機会を通して相手の心と向き合い、心が通い合う経験を積み重ねていきたい。要は両者のバランス（釣り合い）であろうか。このところ、相手を信頼し相手をもてなす和の文化の感性が希薄になってきたと感じているのは私だけでしょうか？

学校という学びの環境の中で子どもたちの将来を見すえ、人として望ましい姿になるための力を身につけることができるよう今年度の実践および研究に期待しています。実践提案、授業を公開してくださる先生方、ご指導いただく講師の先生方をはじめ、研究を推進してくださる多くの先生方、皆様の気持ちを一つにして特活の重要性を一層発信し、充実した研究会となりますようお願いいたします。

平成26年度・総会&講演会

平成26年度の「横浜市立小学校特別活動研究会」総会が、4月23日(水)に技能文化会館において開催されました。平成25年度の会務報告・会計報告、平成26年度の活動計画・予算案・役員選出等の審議がなされ、承認されました。

今年度はテーマを「子どもが育つ学級活動の創造～話し合い活動を通して、よりよい人間関係を築くには～」と設定し、昨年度までの成果をもとにさらに研究を深めていくこととなりました。詳細については、「会員研究計画」をご参照ください。

【講演会の概要】

演題：「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」 ～特別活動リーフレットの効果的活用を通して～

講師：文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋 先生

特別活動リーフレットの作成と配布で目指したことについて具体的にお話いただきました。

- 1 道徳・生徒指導、学力向上に役立つ特別活動になるように
なすことによって心が育ち、生き方を学べるように
問題解決的な生徒指導から成長を促す生徒指導へ
授業と生活の充実、学力向上の土壌づくり
- 2 よりよい学級づくりにつながる特別活動に
いじめを生まない集団づくりは学力向上を促す集団づくり
学級経営の充実、学級力の向上
- 3 合意を形成する言語活動を育てる特別活動に
話し合いの10か条、言語活動の充実と板書の基本的なパターン
- 4 人間を人間の中で育てる、人間が人間を育てる特別活動に
子どもと子どもの関係づくりを生かす（異年齢交流活動の取組）
教育は人間と人間の関係の上に成り立つ（明日への希望が人を育てる）
最後まで先生であり続ける（教師人生をどう歩み、どうまとめるか）

子どもたちの様子を写真やビデオを通してお話いただき、参会者が時には涙するほどでした。杉田先生から明日への希望と元気をいただきました。



課題別研修会

6月4日に日枝小学校で課題別研修会が行われました。「話し合い活動を通してよりよい人間関係を築いていく上で、事前・本時・事後で大切にしたい指導のポイント」について低学年・中学年・高学年の3部会に分かれ、推進委員の提案を元に、グループディスカッションを行いました。その後全体での意見交換を通して、今年度の研究の方向性を共有しました。

話し合い活動を通して人間関係を築いていく上で大切にしたい指導のポイント

<低学年> 【提案の概要】

- 1 低学年部会で育てたい 話し合い活動で、よりよい人間関係が築かれている姿
- 2 話し合い活動の事前・本時・事後における指導のポイント
＜事前＞学級の全員が共通の体験をする
＜本時＞どの子も話し合いの仕方が分かる
＜事後＞集団決定したことをすぐに実践する
- 3 低学年部会として大切にしたいこと
・問題を発見する力を身に付けること
・話し合いの仕方が分かること
・学級生活をよりよくする思いや願いを伝えること



【協議の概要】

目指す子どもの姿や具体的な手立て、支援について話し合い、『みんなで〇〇してよかった』と実感できる手立てとは何か』など、今後の研究の視点について考えることができた。講師の先生からは、子どもはもちろん先生も楽しみになる学級活動をつくってほしいという話をいただいた。

○事前では、教師も一緒に活動することで「もっとみんなと〇〇したいな。」という気持ちをもつことができるようにしたり、繰り返し活動を設定して「もっとみんなと〇〇したいな。」と意欲を高めたりしていく。

- 本時では、「なるほど。」「いいね。」など友達の意見を共感的に聞いている姿を認めたりよい話し方を掲示して残したりすることによって、話し合いの仕方を少しずつ理解できるようにする。
- 事後では、集団決定したことをすぐ実践し、一緒に活動することの楽しさを実感することができるようにしたい。活動の振り返りの場面では、「みんなで△△すると楽しい。」や「Aさんの□□がよかったね。」などの活動のねらいにせまる言葉や子どもの様子を認めていく。

＜中学年＞

【提案の概要】

- 話し合い活動でよりよい人間関係が築かれている姿・子どもの実態を見取るポイント例
- 話し合い活動の事前・本時・事後における指導のポイント
 - ＜事前＞子どもの思いや願いを全体へ広げる
 - 議題選び・司会グループとの事前打ち合わせ等
 - ＜本時＞全員が議題に対して共通理解したうえで話し合うことができるようにする
 - 話し合いの流れや時間配分の共有・板書の工夫等
 - ＜事後＞話し合って決めたことのよさを感じられるようにする
 - 教師による価値付け・話し合いでの学びを掲示等
- 中学年部会として大切にしたいこと
 - ・司会や副司会・記録等の役割を理解し、子どもたちで話し合いを進めることができる。
 - ・話し合いの内容や流れが分かり、主体的に話し合いに参加することができる。
 - ・計画の立て方を知り、活動をやり遂げることを多く経験する。



【協議の内容】

- 誰が司会をやっても話し合いが順調に進むような学級をめざしたい。
- 話し合いの流れをみんなが共通理解できるようにすることで話がかみ合い、異なる意見のよさも感じることができる。
- 話し合いの中では、「自分」から「自分たち」へ視野が広がっていくように支援し、教師の価値付けや振り返りを丁寧に行う。
- 講師の先生からは、子どもが自主的に行う活動と教師による指導のバランスについてお話いただいた。

＜高学年＞

【提案の概要】

- 高学年部会で育てたい 話し合い活動で、よりよい人間関係が築かれている姿
- 話し合い活動の事前・本時・事後における指導のポイント
 - ＜事前＞子どもの思いや願いを大切にする
 - 原案作成・議題選び・司会グループとの事前打ち合わせ等
 - ＜本時＞みんなの思いを生かした集団決定ができるようにする
 - 個の思いの全体化・アイデアの出し方の提示・教師の価値付け等
 - ＜事後＞人間関係の深まりを実感できるようにする
 - 活動の振り返り・活動後の教師による価値付け等
- 高学年部会として大切にしたいこと
 - ・一人一人の思いを大切に話し合う話し合い活動
 - ・自治的な話し合い活動の中での人間関係づくり



【協議の概要】

- 一人一人の思いを生かすことの大切さと難しさを感じた。教師の見通しや手立てを学んでいきたい。
- 子どもが互いに思いを出し合い、納得できる話し合い活動を通して、人間関係の深まりを大切にしていきたい。
- 子どもが互いの思いを生かすために折り合いをつけるための教師の手立てについて考えることができた。
- 子どもたちが自分たちで話し合いを進め、人間関係を深めていくことができるよう一年間勉強していきたい。